

平成28年度 日本万国博覧会記念基金

平成28年度の日本万国博覧会記念基金事業では、国内外62事業に総額1億円の助成を決定しました。
その中から2016年6～10月に実施された助成事業のいくつかをご紹介します。

ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン ヨコハマ2016

事業者：一般社団法人ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン

交付決定額：250万円

実施期間：2016年6月28日～7月15日

実施地：横浜みなとみらいホール(横浜市)

紀尾井ホール(東京都千代田区)

指揮者の大友直人氏とアラン・ギルバート氏が2001年に創設した、クラシックの若手演奏家のための国際教育音楽祭。今年で16回目。世界各国からオーディションを経て集まった受講生(7か国・21名)が、6月28日から18日間、国際的な講師チームの指導のもと練習と演奏会の厳しく充実した日々を送り、7月15日のオーケストラ演奏会を最後に全日程を終了しました。日本側の資金で言葉や文化の違いを越えてクラシック音楽を共に学ぶという新しいコンセプトを実現。日本の音楽界に新風を送ると共に、国際文化交流、国際親善、日本からの文化発信にも寄与しています。



演奏会に参加した受講生たち ©平館平



オーケストラ演奏会を指揮した大友直人と
マイケル・ギルバート ©三浦興一



大友直人指揮によるオーケストラ演奏会 ©三浦興一



受講生による弦楽四重奏の演奏 ©平館平

『シーボルトの”いま”に会う3日間』

第10回 国際シーボルトコレクション会議 2016 in Nagasaki (シーボルト没後150年記念大会)

事業者：財団法人シーボルトハウス

交付決定額：200万円

実施期間：2016年10月20日～10月22日

実施地：長崎歴史文化博物館 1階ホール(長崎市)

長崎ブリックホール 国際会議場(長崎市)

国際シーボルトコレクション会議は、シーボルトハウス(2005年開館)の常設展示の見直しを目的とし、2006年国際交流基金の呼びかけで、日蘭のシーボルト研究者を集めて開催されました。以来、シーボルトコレクション研究の最新情報を分かち合うフォーラムとして成長してきました。今年シーボルト没後150年にあたり、その記念大会となる本大会では、シーボルトの死因に関する新事実や新出北斎6点の確認など、ドイツとオランダに分かれて存在するシーボルトコレクションの包括的研究の成果が24件報告され、研究者だけでなく、一般からも大きな注目を集めました。



シーボルトの死因について新事実を紹介する
ウド・バイライス(ビュルツブルク、シーボルト博物館)



新出北斎6点を確認したと報告するマティ・フォーラ
(ライデン国立民族学博物館)

最終日の質疑に答える報告者(左より、日高薫、大久保純一とも国立歴史民俗博物館教授、小林淳一江戸東京博物館副館長、クリス・スヒールメイヤー日本博物館シーボルトハウス館長)



Noh Discovering Tradition 能 ～伝統の発見～

事業者：十四世六平太記念財団

交付決定額：100万円

実施期間：2016年9月22日

実施地：喜多能楽堂

能楽喜多流の本拠地・喜多能楽堂では、外国人のための能楽普及事業に力を入れています。本公演には世界38か国から256名の外国人を含めて約300名の来場者があり、満員の盛況となりました。第1部ではローマ字併記台本による謡や能楽器と能面を体験。第2部では能「船弁慶」全曲を上演。「日本で過ごした1か月の休暇の中で一番の経験」(イタリア50代男性)、「初めて能を見ました。すごかったです。日本の文化をもっと知りたい」(ペルー50代女性)など大きな反響が寄せられました。万博記念基金の助成によって参加費用を無料にしたことで、多くの留学生が参加。主催者は、「外国人の方々が能楽の体験と鑑賞を通して日本の伝統文化の魅力を知ること、相互理解や新たな創造の契機になればうれしい」と話しています。



楽器の体験



構えの体験

(撮)前島写真店(4点とも)



能「船弁慶」(狩野了一)



謡の体験

ASK ニュース

アーツサポート関西

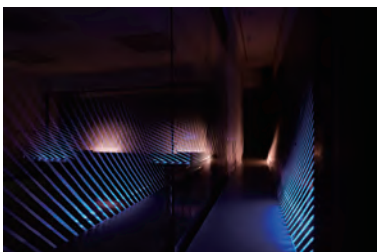
岩井コスモ証券ASK支援寄金



寄付の目録を受け取る小嶋運営委員(右)

2016年10月21日、帝国ホテル大阪でアーツサポート関西(ASK)に対し2,000万円の寄付が贈呈され、ASKの運営委員であるがんこフードサービス株式会社小嶋淳司代表取締役会長に目録が手渡されました。これによって「岩井コスモ証券ASK支援寄金」が設けられ、毎年400万円ずつが5年間にわたり、関西・大阪で活動する若手アーティストへの公募助成の原資に充てられます。この寄付は、岩井コスモグループの創業100周年を記念して行われたもので、京都大学iPS細胞研究基金や大阪府、上方落語協会などASKを含め5団体に対して総額1億4千万円が贈呈されました。

助成事業紹介 はまわき かなで 濱脇奏さんの個展



個展「燈」(あかりの鹿児資料館/8月13~21日)

2016年度の助成先の一つ濱脇奏さんによる個展「燈」が、8月13日～21日にかけてあかりの鹿児資料館(加古川市)で開催されました。高校まで神戸で過ごした濱脇さんは、高校時代にドイツ語を習得し、世界的に有名な美術大学であるデュッセルドルフ美術アカデミーに入学。現在同大学の3回生です。作品は、会場備え付けの展示ケースを作品化したもので、ガラスの反射や映り込みの効果を活かして幻想的な光を表現し、その非日常的な光景で訪れた人々を驚かせました。現代アートの本場ヨーロッパで、世界トップクラスのアーティストから直接アートを学ぶ濱脇さんの今後の活躍に注目です。



濱脇奏さん

岩谷産業が「ワンコイン文楽」に支援寄金を創設

ASKでは、「人形浄瑠璃文楽」を次世代につないでいくため、2014年から2年間にわたり「京阪神ビルディング文楽支援寄金」を設け、近畿圏の大学生や専門学校生を対象にワンコイン(500円)で文楽を鑑賞できる「ワンコイン文楽」を支援してきました。2016年度からはその活動を岩谷産業株式会社が引き継ぎ、「岩谷産業文楽支援寄金(500万円：2016～17年度)」が創設され、9月29日に報道関係者に発表されました。

岩谷産業株式会社代表取締役会長兼CEOの牧野明次氏は、「若い世代の方々が文楽という伝統芸能に触れ、友人たちに広げ、また外国人に自国の伝統文化を語れるよう期待している。伝統文化を盛り上げ、これからの日本を魅力ある国にしていきたい。文楽の素晴らしさは、太夫、三味線、人形遣いの三位一体によるチームワーク。企業も社会を構成するチームの一員なので、微力ながらも文楽の発展に貢献していきたい」と述べました。

人形浄瑠璃文楽座理事長の竹澤團七さんは「ご支援に心より感謝したい。2年間にわたる『ワンコイン文楽』では、延べ約1000人の学生に鑑賞していただいた。今回は国籍、学生、社会人を問わず30歳以下の方であれば誰でも申し込めるようにしたので、子どもたちや若い世代を通して文楽が未来へつながっていくことを願っている」と述べました。

最後に、牧野会長から桐竹勘十郎さんが遣う人形に目録が手渡されました。



左から牧野明次氏、お囃人形(艶容女舞衣:あですがたおんなまいぎぬ)、桐竹勘十郎さん
(9月29日/中之島プラザ[大阪市北区]にて)

)))) 拡大版 21Cafe ((((((

座談会「いま文楽は」 ユネスコ無形文化遺産「文楽」を未来につないでいくために

主催：関西・大阪21世紀協会 2016年9月29日/中之島プラザ



佐々木洋三(司会)
関西・大阪21世紀協会
専務理事



牧野明次氏
岩谷産業株式会社
代表取締役会長兼CEO



鈴木庸一氏
外務省関西特命
全権大使



桐竹勘十郎さん
文楽技芸員・人形遣い



春野恵子さん
浪曲師

岩谷産業の「ワンコイン文楽」の創設を受け、拡大版21Cafeでは、文楽を次世代につなげ、世界に発信することをテーマに、関西・大阪21世紀協会専務理事佐々木洋三の司会進行のもと、パネリストの皆様をお迎えし、座談会を開催しました。

岩谷産業の牧野明次氏は「父親が松竹芸能の顧問医で、私は子どもの頃から人形遣いや太夫の方々に可愛がっていただいた。舞台をじっと見ていると、主遣いの顔が消え人形しか見えなくなる。その感動を子どもたちや若い世代に伝え、経済界でも文楽支援の輪を広げていきたい」と語り、鈴木庸一氏は、「世界各国の人が文楽を見て感動する。これは外交官にとって極めてありがたい。私たちが言葉を尽くしても日本の良さを理解してもらうには時間がかかる」と述べました。

また、2012年にアルジェリア(アフリカ)で公演した桐竹勘十郎さんは、「現地の記者が使っていたカメラやレコーダーは全て日本製だった。彼らは「日本の技術力の高さは十分に知っているが、文楽という伝統芸能を何百

年も大切に残している。あらためて日本が好きになった」と言ってくれ、心から来て良かったと思っただけでなく、英語と日本語(字幕付き)の両方で海外公演をしている春野恵子さんは、「外国の人には日本語の響きも聴いてもらいたい。文楽の皆さんが積極的に海外公演をしているのを見聞きし、とても励まされている」と語るなど、トークは大いに盛り上がりました。



座談会風景